

平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	北消防署救急救助活動事業			会計	款	項	目	大	小	
政 策	02	2節	生活の豊かさを実感できる流山（生活環境の整備）	主管課	北消防署					
施 策	2-3	自然災害・都市災害への備えと予防		主管課長	秋谷 哲夫					

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内在住者・在勤者	意図	災害、事故及び疾病等による傷病者を適切な医療機関に搬送すること。
事業内容	救急業務及び事故、災害等の救助業務。応急手当の普及業務。多様化する現場を想定した救急救助訓練。			
事業開始から現在までの状況変化	平成14年から北消防署となった。地域環境が変化し災害の複雑多様化、予防行政の高度化、防災行政の重要性により業務の増加が予想される。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	救急出動件数(北署管内)	1,743	1,814	1,761	件	↓↓↓	
救助出動件数(北署管内)	6	18	22	件	↓↓↓		
普通救命講習会修了者数	114	317	198	人	↑↑↑		
バイスタンダーCPR	10	15	26	人	↑↑↑		
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						
事務事業のコスト	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成22年から消防団員による普通救命講習会の定期開催が始まった。署員は多種多様化する災害事案に対応するため、訓練や講習会を定期的実施している。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	750,842	747,574	1,077,709				
事業費(b)(円)	750,842	747,574	1,077,709				
うち一般財源	750,842	747,574	1,077,709				
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円) (建設又は取得年度のみ記入)							
想定耐用年数 (年) (建設又は取得年度のみ記入)							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	C 対象が広すぎる
総合評価	拡 充 (事業を拡大して継続すべき)					
					コストの削減	A 削減の余地はない

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H26)の改善計画	救急活動時の円滑化、応急処置の高度化を図るとともに、市民に対する普通救命講習会を定期的開催し、応急手当及びAEDに対する理解や協力を普及させる。	取り組みの課題	救急救命士の救命処置範囲の拡大など、救急業務の高度化に伴い、救急隊員に対する積極的な研修会参加や、救急隊到着前に市民の行う応急処置が求められている。
今年度(H26)に実施した取り組み	救急隊員の各種講演会や症例検討会及び病院実習への参加。また、市民等を対象とした救急訓練や普通救命講習会の実施。	今後の改善計画	救急隊員に対して各種研修会の参加を求め、多様化する救急業務に対応できる隊員を育成するとともに、市民に対してもAEDを含めた更なる応急手当の普及を図る。